

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームびっちゅう		
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10		
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373200298&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心が落ち着く自然環境の中でのんびりと生活をしている 天気の良い日は散歩に出かけたり駐車場に椅子テーブルを持ち出し外気浴をしている。屋根つきテラスでは夕涼みもできる。畑や花壇も設けており季節の野菜 花の世話を共に行なっている。買い物の援助ドライブ等で気分転換も図っている。利用者の方職員共に落ち着ける空間や場所作りに心がけていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天空の郷というだけあって日本の原風景のような自然に恵まれた環境にあり、母体法人が運営する他事業所とも連携を取りながら、入居者の安心・安全な暮らしを支援している。地元自治会とは普段の挨拶から清掃活動・イベントなど、協力関係が良好で、運営推進会議にも積極的に参加してもらっている。入居者も職員も地域の方が多く、住み慣れた場所で思いやりのある家庭的な雰囲気大切に、地域に根づいたホームとなるよう全職員が一丸となり取り組んでいる。昨年は、東日本大震災で被害を受けた福島県にボランティアで職員を派遣した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成をしており、ホーム内の何箇所かに掲げ、いつでも確認できるようにしている。各職員その理念を理解し、それに沿ったケアができるよう心がけている。	職員は理念を理解し、より良いケアを実践出きるよう努めている。地域とのつながりを大切に、その人らしく穏やかに安心して暮らせる、笑顔のケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけており、その際、地域の方たちと挨拶を交わしたり、話を行ったりしている。時に地域での行事に参加している。地域の行事に積極的に参加していこうと思っている。	祭りや運動会などの地域行事には積極的に参加し、地域の一員として、日常の触れ合いや挨拶を大切に交流を深めている。また、年末には地域の方々が家族連れで大掃除のボランティアに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていないのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容に関する情報の共有が他の職員になされていなかったため現在情報の共有に向けて作業中である。	民生委員、老人クラブ会長、コミュニティー協議会会長、市役所職員等の参加があり、二ヶ月に一回実施されている。家族の参加が難しいという事から、今春4月に高梁市の健康増進施設朝霧温泉ゆららで家族との交流食事を企画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡を取っているわけではなく、運営推進会議の際や、介護認定更新の機会等に市の職員、地域包括担当者に報告、相談をしている。	市職員には運営推進会議に出席してもらい、届出や疑問点の確認など、つながりの強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人、十分理解している。ただ、玄関の施錠は、事故防止のためせざるを得ず、利用者が玄関に行かれたり、外出の訴えをしたりする時には可能な限りその求めに応じ一緒に出掛けるようにしている。	入居者一人ひとりのその日の状態や生活リズムを把握し、天気の良い日には職員が付き添ってホーム周辺を散歩し、抑制されない生活となるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で得た情報を他の職員にも公開しお互い声を掛け合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会が持っていないのが現状である 必要に応じて学び活用していけるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者においては日常生活の中でその場を設け要望に応えるよう努力しているその他の方に関しては意見箱面会時等に声をかけている。	面会時などは家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を聞くよう心掛けている。利用者の状況を伝える「ひまわり便り」を送付し喜ばれている。意見等があれば、全員で対応を話し合い、その結果を運営に反映させる体制ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在できるだけ話を聞く機会を設けているつもりである 前任者との関係もあり意見は分かれる。	管理者は、個人面談の他、職員が話し易い雰囲気をつくり、率直な意見を聞くよう努めている。小さな気付きも可能な限り運営に反映させ、意欲向上につながるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できていない。もう少し分かってほしいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なされていない。しかし、職員は各自、頑張ろうとはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のGH会議		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員話を聞きそのつど個々にあった対応を心がけている 情報の共有もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に関してはどの職員も家族の話をよく理解し報告をしている解決に向け努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に利用者から教えられることもある 個々に合ったやり方で支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族に協力を依頼し本人が家族と過ごせる時間を作ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活してこられた場所その当時の生活の様子などよく聞いている 近所の方に面会のお願ひもすることがある 近所の方親戚の方も面会に来られる。	職員は、家族や馴染みの人が来訪し易いような雰囲気作りを心掛けている。 入居者は地域行事の参加や日常の散歩等を通じて、顔なじみの人達と楽しいひと時を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人孤立しないよう声かけをしている。大勢で楽しめることや場所雰囲気作りに努めている。利用者同士で楽しく集われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望はできるだけ聞くようにしている。	職員は、入居者一人ひとりの特性を活かせるよう、日々の関わりの中で意向の把握に努めている。また、その日その時の状態に合わせたケアの実践に取り組み、出来るだけ思いに沿った生活が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の状態はそのつど申し送り等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の観察 意見等聞き反映している。家族の方にも話を聞くように努めている。	昨年の外部評価の結果を受けて、全職員が介護サービス計画書を確認できるよう、置き場所を目に付くところに変えた。気付いたことは職員間で意見を出し合い、必要であれば見直しを行い、情報の共有化を図るという取り組みを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にあった対応がほぼできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮し楽しく1日が過ぎせるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が同法人の医師が主治医となり、月に2回(倉敷より)往診してもらっている。また、緊急時や急変時には、地元の医療機関への受診支援を行なっている。	母体法人の医師による定期的な往診等があり、医療体制が整っている。また、急な発熱等があった場合は、近隣の医療機関に早めの受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各職員はそれぞれ気付いたことを上の者に伝え情報を常に発信しているがある。必要時には医師看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している。	看取りについての指針を作成し、入居時に説明を行っている。しかし個々に事情が異なるため、家族や医師と連携を図りながら支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行なっておらず、実践力に関しては不安な面がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成と、利用者とともに避難訓練を行なっている。地域の方々への協力を呼びかけている。	事業所の「消防計画」に基づき、年2回実施している。地域の避難場所である集会所はホームと隣接しており、安全に避難できる工夫がされている。またこの地域は自然災害が少なく、消防器庫も近くにあり、安心して暮らすことができる場所である。	安心して暮らすことができる立地条件ではあるが、万が一に備えて、地域住民との協力体制の確認と夜間想定避難訓練への取り組みを検討されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導、介助が必要な場合、他の方々にそれと分からないよう、言葉掛けを行なうように心がけている。個々の性格力量に応じ対応しているが難しいこともある。	職員は、入居者のプライバシーへの配慮を意識し、言葉掛けに注意している。気付いたことは職員同士で話し合い、改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく話を聴くようにし、本人の意思を汲み取り尊重するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の個々のペースにあわせるよう努めているものの、職員側の決まりや都合となっていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が持ってこられている衣類の中で、上下の組み合わせの声掛けをおこなったり、乱れがある場合には、他者のいないところにて正すように支援している。髭そりや入浴後の髪の設定等も声かけや介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて、それぞれの出来ることをお願いし、一緒に行なうよう心がけている。(生協の注文書によりメインのおかず選び、調理、盛り付け、片付け等)	食事は職員が調理したものを提供している。入居者と職員は同じ食事を一緒にとりながら、適切な介助を行なっており、ゆったりとした、楽しい時間になっている。利用者の一部は料理の下ごしらえや片付けを一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいの声掛け、介助を行なっている。 義歯の方には、ポリデントを週2回実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を見ながら、排尿・排泄のパターンを掴むようにし、声掛け、誘導、介助を行なっている。	時間や習慣など一人ひとりのパターンを把握し、声掛けや見守りを徹底し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かし軽い運動により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようになっており、基本的には午後からとなっているが、希望や必要に応じ、午前中に入ることもある。拒否される方には、無理には勧めてはいないが、2,3日に一回は入浴していただくよう試みている。	基本的には午後の時間帯に、入居者の希望や必要に応じて入浴している。入浴したくない方には会話やタイミングを工夫して、入浴への意欲を引き出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、ファンヒーター、また加湿器等を使用して配慮を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が各利用者の薬、またそれによる副作用等を把握していないのが現状。服薬の支援に関しては行なっている。薬辞典を確認できるように整備。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行なうよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に沿って、出かけることは難しいが、天気の良い日にはそのように努めている。(散歩、買い物、ドライブ等)	天気の良い日はホームの周辺を散歩し、外の空気に触れる事を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	していただいている。(主に電話)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう努力している(季節の花を飾ったりする)	台所は対面式で、利用者が食事の後片付けや食器洗いを手伝うときにも他の利用者とは話ができ、リビング全体を見渡せる造りになっている。また、台所とリビングの廊下側は、全面ガラス張りになっており明るく開放感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、廊下に長椅子を置いたり、テラスに椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている。冬期はこたつで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた物品の持込をしていたり、活かしている。	各居室には掃き出し窓がついており、ウッドデッキに出ることができる。洗面台、ベッドが設置された広々とした居室に使い慣れた家具などを持ち込み、入居者の個性に合わせて居心地良く生活できる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりや持ち手の増設を行い、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		